

[担当教員]

北後明彦(教授) 中江研(准教授) 浅井保(助教)

[Teaching Assistant]

後藤沙羅(A64) 澤江隆志(A63) 堀内啓佑(A64)

■課題とその趣旨

オフィスビルは、現代社会と都市を代表する建築であるが、近年その位置づけが大きく変わろうとしている。オフィス自体のもつ機能や役割が時代の要請から拡大・変化してきているからであるが、同時に建築空間として普遍的な性格をもっていることも確かである。

今回の課題では、次の4つの観点からのアプローチが大切である。

- (1) 場所のコンテキストの解読
- (2) 内部から外部への考察
- (3) 街並み(景観)としての配慮
- (4) 生活空間としての諸室の提案(考察)

さらにこの課題を通じて、建築の空間感覚(特にスケール感など)と図面表現との具体的関係について理解を求める。

■事務所の概要

・このオフィスは特定の企業の自社ビルとし、その業種は、例えばファッションあるいはデザイン関連の企業等に自由に想定すること。建物内に商品展示やプレゼンテーションのための空間を適宜設けてもよい。

・常時 50~60 人程度の人が執務するものとするが、男女比、業務部門の構成等適宜想定すること。オフィスの機能は、主に企画・立案部門と管理・運営部門が中心で、商品等の製造・流通部門等は近くの別の場所に立地しているものとする。

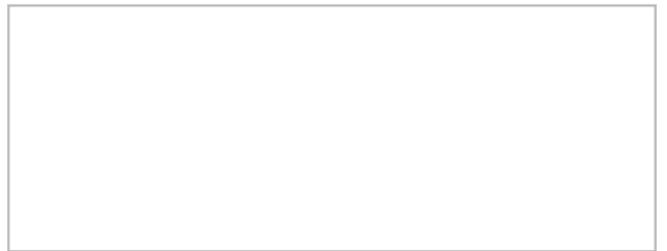
・単なる業務空間というのではなく、地域と密着したプラス・アルファの機能を果たすため、展示、地域の催しなどの会場としての機能をもった建物の提案し公開性、地域への寄与を何らかの形で具体化すること。

■敷地

- ・阪急六甲駅周辺の三か所(A,B,C)の敷地から一つの敷地を各自選ぶ。
- ・敷地面積はいずれも約 600 m² (20×30m) 程度であるが、形状と寸法の詳細は適宜想定する。
- ・敷地は平坦で、道路との高低差はないものとして計画してよい。
- ・周辺環境などの計画条件は適宜想定してよい。容積率指定は 200%。

■建築概要

- ・構造規模：鉄筋コンクリート造 3~4 階建てを原則とする。
- ・延べ面積：1,000 ~ 1,200 m²
- ・屋外に外来者用の 2~3 台のパーキングスペースを確保すること。



課題：敷地

■講評会

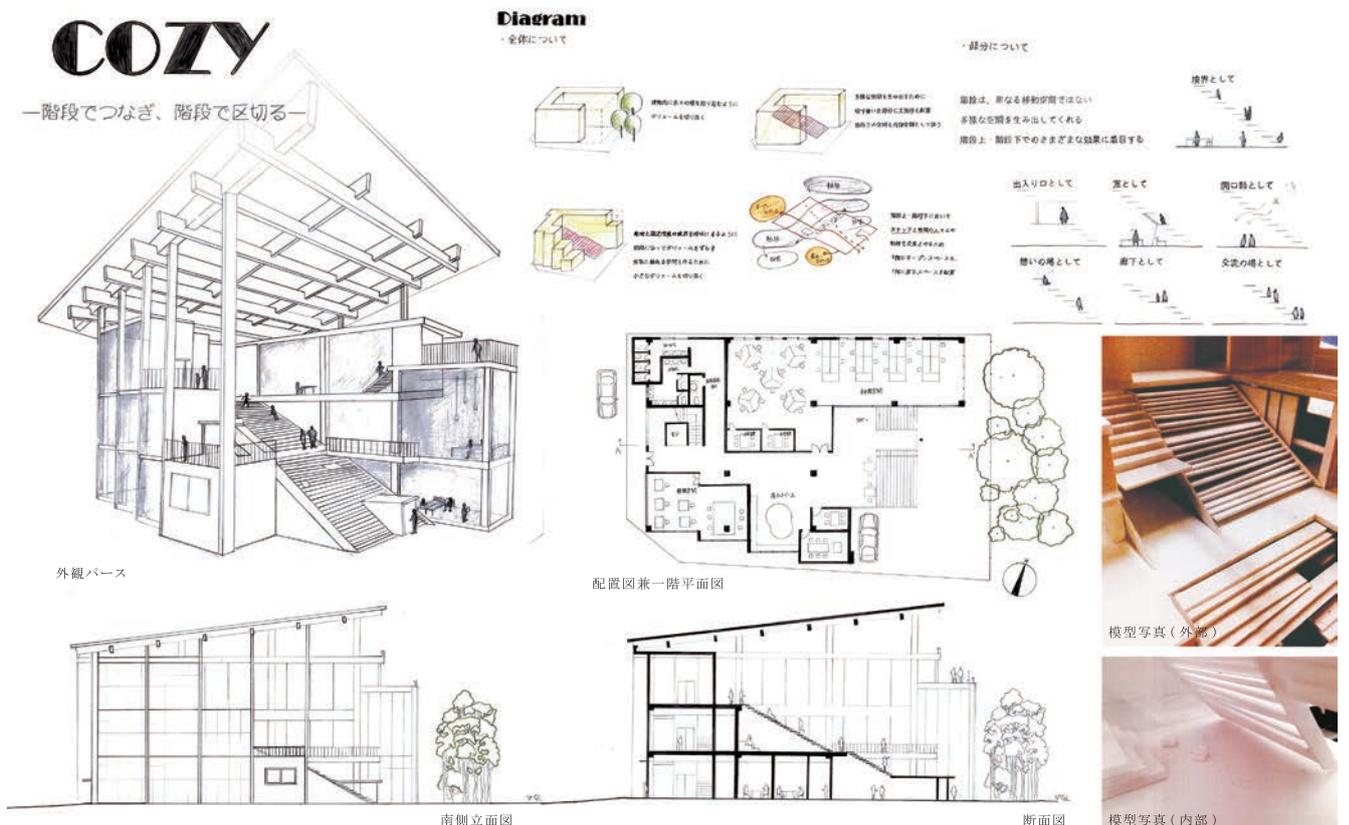
[OBゲスト講師者]

梅田武宏氏(ウメダタケヒロ建築設計事務所, AC9),
地田聡氏(竹中工務店, AC11)

COZY —階段でつなぎ、階段で区切る—

植田実香

六甲にある建築設計事務所。地域の人々・スタッフにとって cozy な空間を提供するため、双方の主動線を外部空間に設定。1 階から 3 階までつながる大階段は、外部と内部を分ける境界となり、部屋と部屋をつなぐ機能を果たしながら、人々が憩い、交流する場となる。



体験する。

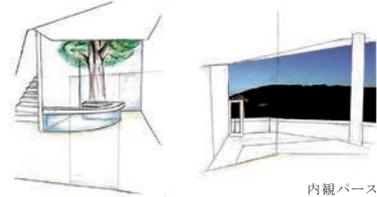
大西琴子

住宅地にあるので何か建てるよりも公園にしたいと思い、山と関係深いことから山のアウトドア商品を扱い体験を売る事務所を考えた。山に興味を持ってもらえれば最終的に自社の利益になるし、引きこもりがちな子供に外で遊ぶ場所を提供したいという思いもある。

体験する。

ダイアグラム

建物内でも自然を体験してもらいたいと思い、建物に草や木を植えようと考えた。そこで高い木も植えられるよう、フロアをずらし階方向に大きな空間が確保できるようにした。



“繋がり”が生む“繋がり”

横田慎一郎

学生街と住宅街という二面性を持つ六甲の地に立つ、カフェショップを併設した小さな輸入会社の事務所。屋上などの外部空間を広く地域に解放することで、地域住民の繋がりを生む場となる。地域の人々をつなぐ媒介となるような事務所を目指した。

“繋がり”が生む“繋がり”

